

社会学

P-01-40-L

教員名

教育研究開発センター

講師 佐々木 洋子

I 授業の目的

わたしたちの生きる「社会」とは、いったいどのようなものであり、どうしたらよりよくなるのだろうか。本講義では、「社会学 sociology」の立場と問題意識から、こうした問いについて考える。社会学の様々な領域での研究にふれることを通じて、現代社会を生きる人びとの多様な背景を理解するための感受性を身につけることを目指す。

II 到達目標

- ・社会や人間を理解する視点の一つとして、「社会学的なもの見方」ができる。
- ・講義で扱う社会学の基礎理論や専門用語を説明できる。
- ・講義で紹介する社会学の個別の研究領域で用いられている理論や概念を説明できる。
- ・こんにちの日本の社会状況を概観できる。
- ・現代家族の特徴を説明できる。
- ・現実の社会現象（現代社会や現代社会を生きる人々の意識や行動）に関心を持ち、調べることができる。
- ・現実の社会現象を社会学の用語や理論を用いて説明できる。
- ・現代の社会問題の具体例を挙げることができる。
- ・自分の言動について、社会学の理論を用いて解釈することができる。
- ・社会現象や社会問題について、自分の意見を述べるができる。
- ・自分と社会のつながりについての考察を深めることができる。

III 教育内容

以下のように講義を進める。受講者数や授業の進度により内容を変更することがある。

1. イントロダクション
2. 予言の自己成就
3. 社会学的自己論 (1)
4. 社会学的自己論 (2)
5. 準抛集団
6. 規範と逸脱 (1)
7. 規範と逸脱 (2)
8. 映像で考える社会問題 (1)
9. 映像で考える社会問題 (2)
10. 感情労働
11. 官僚制の逆機能
12. 家族 (1)
13. 家族 (2)
14. 定期試験

IV 学習および教育方法

講義形式（この授業は、「用語」や「正解」を覚えることを目指すものではない。答えのない問いについて自分で考察し続けること、それを他者に的確に伝えることができるようになることを目指す。その助けとなるよう受講生同士のグループワークやディスカッションを取り入れることもある）。適宜、資料を配付する。また、映像資料を用いることもある。

V 評価の方法

全学的基準を前提とし、毎回の授業内課題 50%、定期試験 50%で評価する。

VI 推薦する参考書

講義中に随時紹介する。

